

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。  
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を  
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ  
 どよろしくお願い申し上げます。

謹白

### 記

■ 実施日 2020年1月31日(金) ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目 コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
X405 9	第Ⅷ因子 (F8) 〔合成基質法〕 2B390-0000-022-315	<div style="background-color: red; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">速やかに遠心</div> 血漿 各0.3	PC2 (K) ↓ A00 (X)	凍結 (7日)	2~6	229 ※2	合成 基質法	60~140 (%)	採血後、速や かに血漿分離 してくださ い。
X400 2	第Ⅸ因子 (F9) 〔合成基質法〕 2B400-0000-022-315			凍結 (28 日)					

※2：血液学的検査判断料



## ●凝固因子活性検査 第Ⅷ (F8) ・Ⅸ (F9) 因子

合成基質法を用いた血液凝固活性検査です。

血液凝固因子は、複数の酵素と補酵素からなり、一連の反応を介して安定化フィブリン形成に至る役割を担っています。その量的又は、質的異常によって生じる血友病は、X連鎖性劣性遺伝形式の先天性出血性疾患で、血液凝固第Ⅷ因子 (FⅧ) 欠乏症を血友病A、凝固第Ⅸ因子 (FIX) 欠乏症を血友病Bといいます。

血液凝固因子の活性検査には、これまで凝固一段法による検査 (APTT試薬を用いる検査) が広く用いられてきましたが、軽症血友病AではAPTT試薬によるFⅧ活性に対する感受性に多様性があることが知られており、用いる試薬により活性値が変わることが、日本血栓止血学会よりアナウンスされています。

また、血友病の治療においては投与回数の低減を目指し、FⅧやFIXに分子修飾が施された半減期延長型凝固因子製剤の普及が進んでおり、投与後のモニタリングにおいては分子構造の変化に影響を受けない合成基質法での測定が望まれています。

軽症血友病における診断補助や、半減期延長型凝固因子製剤投与におけるモニタリングにご活用ください。

### ▼疾患との関連

血友病A・B、血友病A・B保因者  
軽症血友病

### ▼関連する主な検査項目

フォン・ウィルブランド因子活性、抗原定量  
凝固抑制因子検査 第Ⅷ・Ⅸ因子  
活性化部分 トロンボプラスチン時間 (APTT)  
プロトロンビン時間 (PT)

### ▼検査要項

検査項目名	凝固因子活性検査	
	第Ⅷ因子 (F8) [合成基質法]	第Ⅸ因子 (F9) [合成基質法]
項目コードNo.	X405 9	X400 2
検体量	<b>速やかに遠心</b> 血漿 各0.3 mL	
容器	PC2 (K) →A00 (X) ポリスピッツ	
保存方法	必ず凍結保存してください	
所要日数	2~6 日	
検査方法	合成基質法	
基準値	60~140 (%)	
検査実施料	229点 (「D006」出血・凝固検査「29」)	
判断料	125点 (血液学的検査判断料)	
備考	採血後、速やかに血漿分離してください。	

&1

### ●凝固検体の取り扱いについて

凝固検体の取り扱いについては、SRL総合検査案内 容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。

### ●参考文献

金井 正光, 他: 臨床検査法提要 (金原出版) 第34版: 407~410, 2015. (検査方法参考文献)  
窓岩 清治: 血栓止血誌29 (1): 10~19, 2018. (臨床的意義参考文献)